

2018年
12月10日

No.241

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

さざなみネット第10回定期大会

地域金融機関は地域経済と一緒に歩んでこそ存在意義がある

さざなみネットは、11月13日第10回定期大会を、大津市内において開催しました。委任状を含み全員が参加しました。

大会では、浦谷分会長の議長としてのあいさつに続いて、金融労連の中島委員長（滋賀従組委員長）から次のようにあいさつを受けました。

今年の3月決算で、総資金利ザヤの逆ザヤが、銀行112行中16行、信用金庫151金庫中21金庫になった。単産の先輩が「金融機関は逆ザヤでどうして経営するのか。バブルの時に破綻したんだ」と。非常に意味深い話だと聞いた。

支店から代理店になった地域の商工団体の方から「地域経済に責任を持ちますと言っていたのに、このザマはどういうことか」と苦言があったと聞いている。地域金融機関は地域経済と一緒に歩んでこそ存在意義があり、それが役割である。

一方、地域金融機関がマスコミでこれだけ話題になる時はめったにない。話題の不正融資が、金融庁の方針に問題があったからか、新庁官が新聞のインタビューで「地域金融の継続性の観点から多くの地域金融機関は共同組織にすべきである」という見解もある。制度が限界を作っているのなら、その時は我々は検討する」と言われている。あとは我々がどう闘うかである。ともにがんばろう。

(議題)

- ・前大会以降の活動
組合員と機関紙・交流会・電話やメールなどでつながってきた。毎月分会会議を開催し、情勢や職場の状況について論議し、機関紙を毎月発行した。近畿地協・金融ユニオン・友好組合や民主団体の会議や集会などに参加し学習した。
 - ・これからの運動について
上部団体などの運動方針に基づき、また金融政策や労働政策などを学習し、活動する。
 - ・前年度決算・会計監査報告・予算(案)(省略)
 - ・役員について(省略)
- 討論では職場の状況や人間らしい働き方、組合の役割などについて意見を交わし、全議案とも提案通り採択されました。
- 大会後、交流会を開き職場の状況や思いなどを出し合い、懇親を深めました。



「実弾演習をやめろ」あいばの集会に350人

12月8日、高島市の陸上自衛隊饗庭野演習場の迫撃砲弾事故(11月14日)を受け、「住民の命をまもり、自衛隊の実弾演習に反対するあいばの集会」が、演習場のある高島市今津町住吉公園で行われ、関西一円から350人が、さざなみネットから2人が参加しました。

集会では主催者代表のみなさんたちが「3年前にも民家の屋根を突き破る事故があった。ゆるしてはならない」「いつか人身事故が起きかねない」「欠陥演習場は廃止すべき」などと訴えました。

実弾射撃訓練の中止や第三者調査委員会を設置しての原因究明、来春予定のオスプレイ参加の日米合同演習の中止などを決議し、今津駐屯地周辺をデモ行進しました。



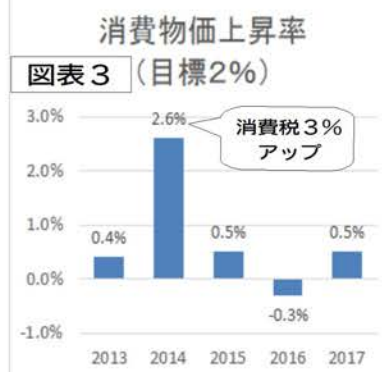
声音天舞菩薩 岩波 美智子さん 画

近畿地協第1回常任幹事会 ミニ学習会

日本経済・暮らし再建は賃上げ・労働条件の改善で

11月24日、近畿地協第1回常任幹事会が大阪市の「アイフル」会議室で行われ、近畿各地から12人が、さざなみネットから山崎書記長が参加しました。17～18日に行われた金融労連第13回春闘討論集会での山家悠紀夫氏（暮らしと経済研究室主宰）による講演「アベノミクスの下、日本経済はどう変わったか～益少なく、害多い『異次元金融緩和政策』におさらばを～」を材料して「ミニ学習会」が行なわれました。概要を記載します。

- I. 成果が上がらなかったアベノミクスの6年（5年の実績を振り返る）
- ①良くなったのは、安倍内閣発足直後の2013年だけで、その後はほぼ横ばい。（下図表1）13年はリーマンショックからの回復過程であり、安倍内閣の功績ではなく、自然の勢い。
 - ②失敗だったアベノミクス。目標＝長期停滞からの脱出・・・自ら掲げた目標、達成出来ず（右図表2、3）
 - ③人々の暮らしは一段と厳しくなった
非正規労働者の増加、労働者の平均賃金の低迷、勤労者家計の実質可処分所得下落（右図表4）、中小・零細企業の経営は厳しさが続く、エンゲル係数が著しく上昇、消費者志向が3年連続下落
- II. 効果は薄く、副作用が大きい「異次元金融緩和政策」
弊害、預金利息の減少、各種手数料の負担増、金融機関経営難など
- III. それで、どうするか～日本経済・暮らし再建の道



- ～暮らしを良くすれば良くするほど、景気も日本経済もよくなる～
- ①最も望ましいのは・・・大企業を大切に政策から人々の暮らしを大切に政策へ
 - ②当面は・・・消費税を増税させない、社会保障をこれ以上改悪させない
 - ③金融面では、せめてマイナス金利政策を止めさせる
 - ④労働組合としては、賃上げその他労働条件の改善を勝ち取る



第19回湖北母親大会

平和が文化となった国 理想を実現とした国 コスタリカ

12月9日、長浜市民交流センターにおいて、第19回湖北母親大会があり、映画「積極的平和国家のつくり方 コスタリカの軌跡」が上映されました。さざなみネットから2人が参加しました。

コスタリカは、1948年に軍隊を廃止。軍事予算を教育・医療予算にまわし無料化を実現し、環境のために国家予算を振り分けてきました。その結果、地球の健全性や人々の幸福度、そして健康を図る指標「地球幸福度指数（HP1）2016」の世界ランキングにおいて、140カ国中で世界一に輝いています。

感想 清水さんから感想をいただきました。軍隊なしで国の平和を守ってきた国 コスタリカ。「年間予算が戦闘機一機分という小国が、武装して勝てる訳がない。軍隊を持たず中立こそが平和への道。」素晴らしい

い選択でした。様々な攻撃や困難を乗り越え、教育、医療、環境に投資していったのです。国民の中に民主主義が育ち危機を救ってきました。そんな国にも貿易自由化、新自由主義が入り新たな危機が押し寄せていますが、国の歴史と国民が新たに動かしてくれると思いました。世界に誇る素晴らしい憲法を持つ日本。「コスタリカの軌跡」を、ぜひ日本の軌跡にしたいものです。

